



11月後半に入る頃となりました。

発表会の練習に、子どもたちの意識の高まりは、やはり年長児たちに目立ちます。3回目ですから当然ですね。  
そんな空気に、年中児たちも引かれてくるし、年少児たちも続きます。たのしみです。

■生活発表会に使う衣装及び小物づくりには、今年と沢山のお母さま方のご協力をいただいております。

毎年このことから、倉庫中で使う衣装や小物などは、これを使ってきたものの中から使うようにして来ております。

しかし、担任の想いとは違う雰囲気であったり、サイズの面などがあつたりで、思うようには行きません。

毎年ですが、素敵な作品が寄せられており、スタッフはどちらさんではございますが、身につける子どもたちも、笑みがこぼれるし、やる気満々になります♡

本当に、ありがとうございます。

■例年だと、この時期に子どもたちのおどろつき大会が開催されます。

今年と、密を避けて中止となっております。残念ですね。



年中児たちが、ねじりはちまきで、ふたりのと組みになって、この用の杵でペタンペタンと...

それを応援する為に、年少児たちは、おどろつきの唄の大合唱!!

年長児たちは、つきたてのおどろきを、クラクラ頃に小さく丸くしてくれます。(お手伝いのママ達が砂糖正油にかけられます)

つぼみのおどろきたちは、観て、応援して、喰べる役目です。



経験させてあげたかったです!

(心の育ちシリーズ)

## 先回りせず、ヒントを

ママの安心子育て  
うさぎのふくご世  
お茶のくみ子犬  
香織 敬啓

4,5歳の子どもは、しっかりしてくる反面、たまに驚くほど忘れっぽい世です。「ああ、うちの子と!」というママと意外に多いのではないのでしょうか。お気に入りのオモチャをどこかに置いてしまったり、お友達との約束をしたのにすっかり忘れていたり、この前教文たはずのとき、思い出せない、などということがあつたりと知られませんが、これが続くと、「この子、大丈夫かしら...」と心配になることあるでしょう。子どもが忘れっぽいのは、まだ脳のネットワークが完全に出ま上がっていないからです。一度覚えて、上手に取り出せないのです。

多少の個人差はありますが、徐々に成長していく世ですから、忘れ坊でと大丈夫。あまり心配する必要はありません。ちなみに、人間の記憶する、という機能は、0歳から始まっているといわれています。一方で、ママのお腹にいる時から記憶は始まっているという説とあります。

スムーズに記憶を取り出せない時は、ママがちょっとだけヒントを与えてあげましょう。例えば、白いちやちやを見ても「これなんだっけ?」と聞いてきたら、「あれ、この前、おばあちゃんの家で見なかつたっけ?」などと促します。そうすれば、「あ、モンシロチョウだ。おばあちゃんの家の前にはいたよ」と思い出すかと知られませんが、

又、外出の時、例えば靴下を履くのを忘れていたら、「あれ、何か足りないね。なんだろ?」と声をかけます。「あ、靴下だ! ママ靴下とって」と気づくかと知られませんが、

脳のネットワークは、使えば使うほど強くなるといわれています。何でもママやパパが先回りしてしまわず、なるべく子どもが自分で考えて答えを導き出すようにしましょう。